

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	高槻中学校・高等学校	階数	地上4F
建設地	高槻市沢良木町	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準住居地域、準防	平均居住人員	1,655 人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年11月20日
敷地面積	55,511 m ²	作成者	類設計室 柳瀬
建築面積	4,559 m ²	確認日	2018年11月20日
延床面積	13,639 m ²	確認者	類設計室 柳瀬



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 85%

③上記+②以外の 85%

④上記+ 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 施設コンセプトとして『生徒たちの志を育む探求空間』の実現を目指すこととし、探求空間に相応しい室内環境、サービス性能、室外環境の整備に取り組んだ。また施設を利用する生徒にとってのみならず、周辺環境にも優しい施設となるよう、エネルギー、資源・マテリアル、敷地外環境に配慮する計画とした。		その他 なし
Q1 室内環境 まず、室内環境の向上に配慮して、室内騒音レベルおよび壁・天井の遮音性能に配慮した。次に、温熱環境に配慮して、室温制御、空調方式においてより快適な環境となる設計とした。さらに、光・視環境に配慮して、屋	Q2 サービス性能 まず、心理性・快適性に配慮して、教室の天井高を2.7mを超える高さとし、設計段階では施設コンセプトを内装計画に反映するための具体的な取り組みを行っている。次に、維持管理に配慮した内外装仕上げとしており、清掃時	Q3 室外環境(敷地内) 生物環境の保全と創出、まちなみ・景観、地域性・アメニティに配慮した設計としている。
LR1 エネルギー 建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化を行い、運用管理体制を整備している。	LR2 資源・マテリアル まず、水資源保護に配慮して節水および雨水利用を行っている。次に、非再生性資源の使用削減に配慮して躯体材料以外におけるリサイクル材を多用し、部材の再利用可能性向上への取り組みを行っている。さらに、汚染物質含有材料の使用回避のため、有害物質を含まない材料を多用し	LR3 敷地外環境 まず、地域環境に配慮して、温熱環境悪化改善のための取り組みを行っている。次に、地域インフラへの負荷抑制に配慮して交通負荷抑制の取り組み、および廃棄物処理負荷抑制の取り組みを行っている。さらに、風害・砂塵・日照障害の抑制に配慮した取り組みを行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-変-0016

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	高槻中学校・高等学校					
	建設地	大阪府高槻市沢良木町					
	用途/区分	学校(小中高)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					4	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.6	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	4.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.3	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		